

軽自動車検査協会における平成10年9月1日以降製作車の

前照灯試験の取扱いについて

～本検査場・出張検査場への持ち込み検査の場合～

既に和整振瓦版7月号でお知らせしました軽自動車の検査場への持ち込み検査においては、これまで前照灯の機器による検査は申告がなければ走行用前照灯（ハイビーム）で実施してきましたが、平成10年9月1日以降に制作された軽自動車は、平成27年9月1日から、すれ違い用前照灯（ロービーム）により実施することが決定しました。

走行用前照灯で調整した車両でも、該当する車両はすれ違い用前照灯での受検が必要です。ご注意ください。よろしくお願いいたします。


また、本検査場及び出張検査場での検査は、次項「前照灯検査フロー」をご確認ください。

平成27年7月28日


ロービームでの
検査を行います

平成10年9月1日以降に製作された軽自動車の前照灯試験は、平成27年9月1日より、すれ違い用前照灯により実施します。

これまで前照灯の機器による検査は申告がなければ走行用前照灯（ハイビーム）で実施してきましたが、平成10年9月1日以降に製作された軽自動車は、平成27年9月1日から、すれ違い用前照灯（ロービーム）により実施します。
走行用前照灯で調整した車両でも、該当する車両はすれ違い用前照灯での受検が必要です。




この車は、
ロービームで
検査します



ハイビームで調整
してきたんだけど

平成10年9月1日以降製作車
すれ違い用前照灯（ロービーム）検査車

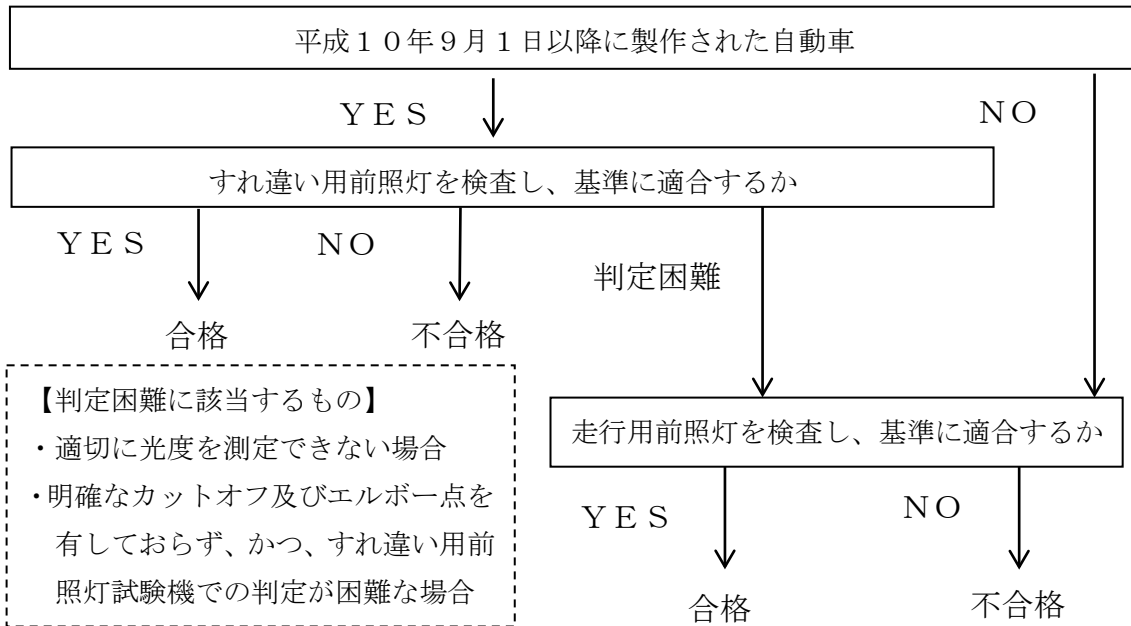
◇ 詳しくは下記にお問い合わせ下さい ◇



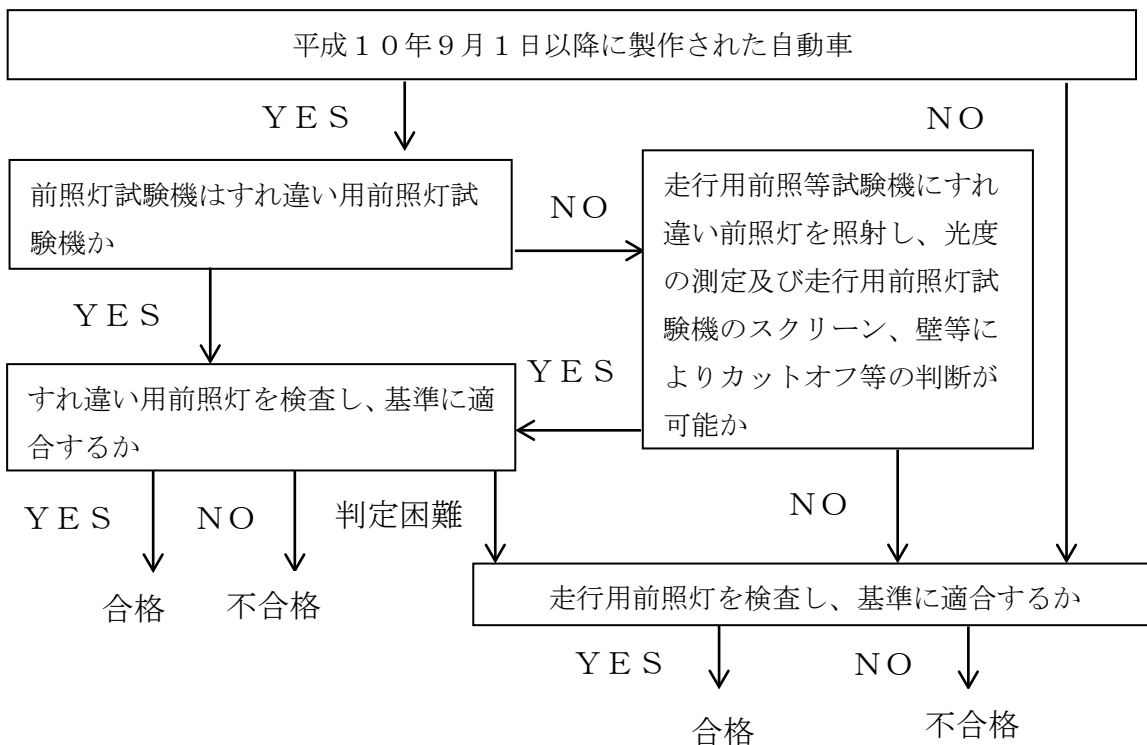
軽自動車検査協会
Light Motor Vehicle Inspection Organization

和歌山事務所
TEL 050-3816-1846

検査コースにおける前照灯検査フロー



出張検査場における前照灯検査フロー



すれ違い前照灯検査対象車両について（平成10年9月1日以降製作車の判断）

自動車の製作年月日が自動車検査証等で判断できない場合にあつては、自動車検査証の型式欄に記載されている自動車排出ガス規制の識別記号が2桁以降（平成10年規制、平成10年アイドリング規制 GD、GF等）のものを対象車両とする。

各地方運輸局自動車技術安全部長 殿
沖縄総合事務局運輸部長 殿

自動車局整備課長

整備工場における平成 10 年 9 月 1 日以降製作車の前照灯検査の取扱いについて

整備工場における平成 10 年 9 月 1 日以降製作車（二輪自動車、側車付二輪自動車、除雪、土木作業その他特別な用途に使用される自動車で地方運輸局長の指定するもの、最高速度 35km/h 未満の大型特殊自動車及び農耕作業用小型特殊自動車を除く。以下「新基準車」という。）の前照灯検査においては、平成 27 年 9 月 1 日以降、下記のとおり取扱うこととしたので、遺漏のないよう関係者に対し周知徹底を図られたい。

なお、「整備工場における前照灯の検査の取扱いについて」（平成 10 年 8 月 31 日付け自整第 142 号）については、平成 27 年 8 月 31 日をもって廃止する。

記

1. 検査方法を変更する背景

平成 7 年 12 月の前照灯に係る道路運送車両の保安基準の改正により、走行用前照灯及びすれ違い用前照灯の要件が分けて規定され、新基準車については、原則、すれ違い用前照灯を検査することとされている。しかしながら、改正施行後においても、新基準車が少ないこと、すれ違い用前照灯試験機が普及していないこと等から、当分の間の経過措置として、すれ違い用前照灯の検査に代えて走行用前照灯を検査していたところである。

一方、現在、新基準車の保有割合はおよそ 9 割に達しており、すれ違い用前照灯試験機の普及も整備工場において 7 割を超え、自動車検査独立行政法人、軽自動車検査協会ともにほぼ完了しており、すれ違い用前照灯の検査体制が概ね整備された状況となっている。このため、今般、上記の経過措置を改め、新基準車の前照灯を検査する場合には、原則、すれ違い用前照灯を検査することとする。

2. 検査方法及び判定基準

(1) すれ違い用前照灯試験機を保有している場合

原則、すれ違い用前照灯を、すれ違い用前照灯試験機で検査する。

なお、以下の場合に限り、特例的な取扱いとして走行用前照灯を走行用前照灯試験機で検査することができる。

ア 適切に光度を測定できない場合

イ 明確なカットオフ及びエルボ一点を有しておらず、かつ、すれ違い用前照灯試験機での判定が困難な場合

(2) すれ違い用前照灯試験機を保有していない場合

次の要領に従って、原則、すれ違い用前照灯を、走行用前照灯試験機のスクリーンで検査する。

なお、以下の場合に限り、特例的な取扱いとして走行用前照灯を検査することができる。

ア 適切に光度を測定できない場合

イ 明確なカットオフ及びエルボ一点を有しておらず、かつ、走行用前照灯試験機での判定が困難な場合

ウ 前照灯試験機にスクリーンが付属していない場合（ただし、壁等に直接照射してすれ違い用前照灯の配光を検査することもできる）

[測定方法]

① 走行用前照灯試験機の受光部中心とすれ違い用前照灯の照明部中心を合わせる。

② カットオフの位置は、エルボ一点の垂直及び水平位置をスクリーンにより目視で測定。なお、明確なカットオフを有していないもの（SAE 灯火器を想定）については、④による。

③ 光度は、手動式の試験機の場合、すれ違い用前照灯の照明部中心から下方 0.6 度（当該照明部中心の高さが 1m を超える自動車にあつては、下方 0.9 度）、左方 1.3 度の点における光度を測定。〔前方 10m の位置において、当該照明部中心を含む水平面より下方 11cm（当該照明部中心の高さが 1m を超える自動車にあつては、16cm）の直線及び当該照明部中心を含み、かつ、車両中心線と平行な鉛直線より左方に 23cm の直線と交わる位置における光度を測定。〕

自動式の試験機の場合、光度が最大となる点における光度を測定。

④ 明確なカットオフを有していないもの（SAE 灯火器を想定）については、光度が最大となる点の位置及びその点における光度を測定。

[判定基準]

① エルボ一点は、前方 10m の位置において、すれ違い用前照灯の照明部中心を含む水平面より下方 2cm の直線及び下方 15cm の直線（標準位置は下方 10cm）（当該照明部中心の高さが 1m を超える自動車にあつては、下方 7cm の直線及び下方 20cm の直線（標準位置は下方 15cm））並びに当該照明部中心を含み、かつ、車両中心線と平行な鉛直線より左右にそれぞれ 27cm の直線に囲まれた範囲内（標準位置は照明部中心を通る垂直線上）にあること。

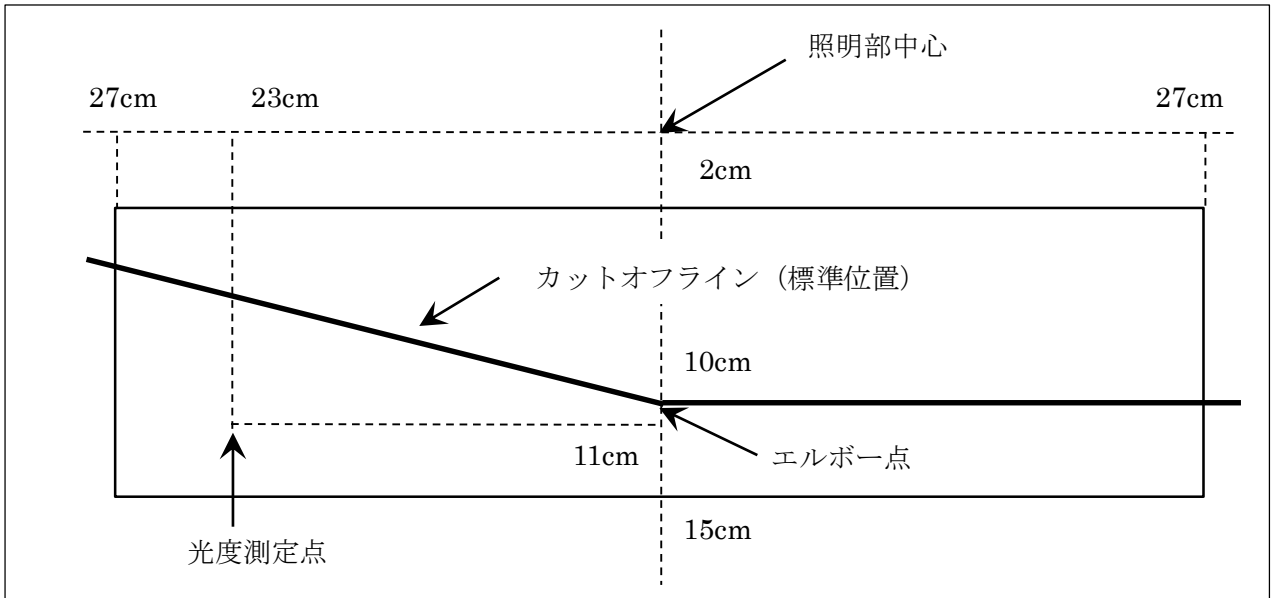
② 明確なカットオフを有していないもの（SAE 灯火器を想定）については、上記④の方法で測定した場合、光度が最大となる点の垂直位置は、照明部中心を通る

水平線より下方にあること。また、水平位置は、照明部中心を通る垂直線より左方にあること。

③ 光度測定点（路面点相当）における光度が 6,400 カンデラ以上であること。

※図 1 参照

〔図 1〕 10m の距離において測定する場合の判定基準（前照灯の照明部中心の高さが 1m 以下の場合）



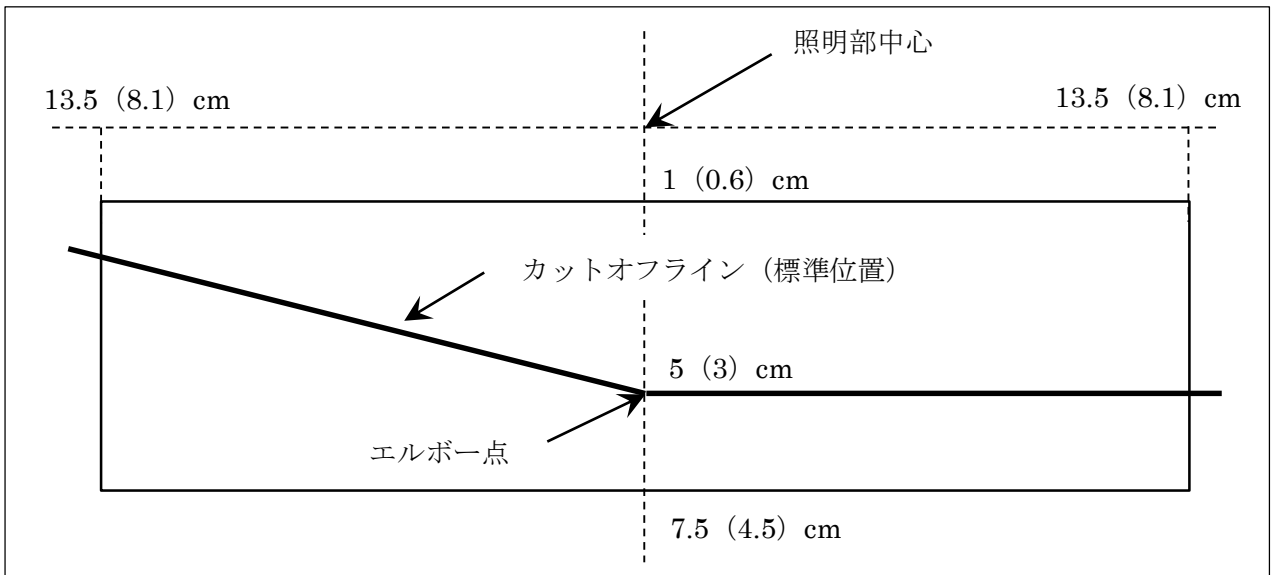
（数値は灯火器中心からの距離を示す）

〔壁等を用いた測定〕

壁等に直接照射して測定を行う場合は、以下に示すスクリーンを作成し、前照灯の前方 5m 又は 3m の位置に正対させて行う。スクリーンに示してある範囲内にエルボ一点があれば合格であり、調整をする場合のカットオフライン（エルボ一点）の標準位置を太線で示してある。

※図 2 参照

〔図 2〕 測定に用いるスクリーンの例（前照灯の照明部中心の高さが 1m 以下の場合）



（数値は灯火器中心からの距離を示す。なお、括弧外の数値は 5m、括弧内の数値は 3m の場合）

参考 整備工場における前照灯検査（整備）の流れ

